

児童・生徒の現状・課題

- ・学習に対してまじめに取り組むものの、積極性や主体性に欠ける。
- ・授業の際には努力しているが、自ら根拠をもって選択して学習することを苦手とし、見通しをもって学習に取り組むことができていない。



学び続ける力を育むための重点目標

- 他者との関わりから自己理解を深める
- 自己理解した内容から根拠をもって、自分に必要な学習内容を選択する。



具体的な手だて①

- ・振り返りや感想を協働的におこなうことで客観的に自分の活動を見直せるように単元計画を設定する。

具体的な手だて②

- ・協働的な振り返りから得られた根拠をもって個別選択する場面を意図的に設定する。

具体的な手だて③

- ・特別支援教育の視点を取り入れ、個別最適な学びにおいて多様な選択肢を提示できるように計画する。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

意図的に個別最適・協働的な学習を取り入れた授業を計画し、年2回グループに分かれて相互授業観察を行う。また学期の終わりに授業観察の反省を行う。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	年度当初	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画をたてて、学習している。	76.0	80.0	
②授業のはじめには、これまで学習したことを振り返ったり、取り組む課題やめあてを確認したりしている。	78.8	80.0	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	年度当初	目標(5月)	結果(1月)
①個別最適な学びを実現するため、事前に個に応じた課題や支援方法計画している。	86.0	90.0	
②学習課題、学習過程、学習方法等において、生徒が選択できる場面を設定している。	66.6	80.0	

総括(5月)

学び続ける力の育成には、自らの学習や成果を振り返ることで課題を理解し、それを改善するための学びを自ら選択することを繰り返すことが重要である。このプロセスを意図的に学習活動に取り入れる単元計画を作成することで目標の達成を目指していく。

総括(1月)